

廣告

貸家廣告

一貸家貳棟 佐賀市水ヶ江町字片田江米穀取引所近キ
但建詰敷詰尤米穀仲買店及旅館屋業等ニハ適當ナリ
右望之御方ハ左ノ處ニ御來談ヲ乞フ
杵島郡北方停車場脇
七月六日

大串銀行貸附部
大串出張所
佐賀市片田江



遠隔地原稿御郵送
被成下度着次第小包
御送達可仕候

石版活版印刷所

佐賀市八幡小路八幡社前
木下泰山堂

亡父西原文次 葬送之際ハ遠路御會葬被成下難有謝奉候先ハ乍畧儀以新紙御禮申上度早々如斯ニ御座候

實子 西原達次郎
外 親戚一同

●昨年來小兒科専門研究ノ爲メ上京中ノ處
今般 小兒科専門治療ニ
歸郷ス 神崎郡西郷村大字橋武
月 日 重松小兒科醫院

廣告

拙者儀先般大坂市東區今橋四丁目 日本
酒造火災保險株式會社九州支店
地ト火災保險契約ヲ締結スルヤ否火災ニ罹リ候處今般全社ヨリ無滞ノ保險金仕拂ヲ受ケ益々火災保險ノ必要ヲ感シ候條此段特ニ廣告候也 福岡縣山門郡沖端町
明治卅四年七月一日 北原長太郎

商業登記公告

三井物産合名會社支店變更ニ付左ノ通り變更ヲ登記ス 一明治卅四年七月壹日總社員ノ同意ニヨリ三井物産合名會社西司支店ヲ門司市大字門司字橋通五番ノ貳貳番ノ四ニ移轉ス 右明治卅四年七月八日登記

唐津區裁判所

學校尋常科訓導主任 全郡西
尋常小學校訓導主任 下俵を全
尋常科訓導主任 十給下俵を就も給與三養
基郡基里尋常小學校訓導主任 スカは依願退

有田沿革の社會眼 (四十)

似水

有田沿革盛衰 分類と本編の完結
以上酒を數萬言説き去り説き來りたる社會
眼は漸く慶應の晩年まで書き終つた讀りて
既往二百五十年間の事蹟を追想すれば否と
して夢の如く時に起伏あり勢に消長あり正
に相關聯比較して即ち強弱をなし即ち盛衰
興亡を見るソシテ古の有田磁器今の有田磁
器たらず今日の逆境亦明日の逆境ならざる
以上は遠き歴史に求め近き統計に徴して人
爲的に發達の道を講ずるは實に製陶家諸士
の義務なりと思ふ(自分は失敗したくせに
左様失敗したから斯様な事が分かつたの
だ失禮ながらと大威張りしても失張り空威
張りで到底回復する事の出来ないのは有田
磁器も其通に要するに其盛衰は三期に分類
せらるゝのである第一期隆昌時代元和二年
より正徳二年まで九十年間第二期沈滞時代
正徳三年より享和三年まで九十八年間第三
期衰退時代文化六年より慶應三年まで六十
四年間ソシテ獨逸のソグネルが來りし以降
を恢復時代とする以上の分類は其大要を示
したものであるも大体の軌道は外れはせな
いのだ有田磁器と威張りちらして居つたの
が九十年で他の製陶地の抵抗に堪へて居つ
たのが九十八年とすれば殘る所の六十四年
は是等の打撃が一時に逆發したもので殆ん
ど悲域に沈淪した時である百分の三十六が
隆昌時代とすれば果して威張る丈けの價値
があるや否や夫れも反對に衰退沈滞隆昌と
なれば兎も角なれど有田の趨勢は急轉直下
の有様で衰退しつゝある一條の清河あり徐
々として流る忽ち石礁に觸れ千珠の玉をな
す所謂外物の打撃だ有田は此打撃に遭遇す
る數度而して自ら進んで他の製陶地に打撃
を加へたる事なきの善くいへば聖人義士な
るも抑も我有田沿革史に汚點を印したるも
のでいながらふか要するに有田ハ士ハ創業
に富みて守成の技倆がない頭はヒヨロ／＼
出すけれど尻のつゝめが悪るい……悪るい
から長所を他より吸收さるゝソシテ自分は
吸收する事が出来ないのは吾人が繰述した
社會眼で立證せらるゝのである知らず明治
時代の有田の形勢は……是れより更に明
治に活動せる趨勢を直寫したく思ふけれど
兎に角一應是れで擲筆する事にした有田磁
器の過去現在未來の問題に付いては吾人亦
意見あり追て筆硯を清めて起稿する事とし
やふ吾人は決して自分の名譽の爲めにせず
當業者参考の一助として本編はなつたので
ある若し幸ひに一枝を折り賞し玉ならば吾
人が望みは充分だ往事は今を知り明鏡は形
を照らして運々たる光彩有田磁器の上に放
たれなば此上の喜びはないサヨウナラ

(完結)

員の治癒 頃る 益す 有の 夜を 誤信 定め たる 姉に ばの 藤嘉 角の外 角が 一に 死 死 人 七 番 位 出 良 料 量 持 治癒 員の